

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：32618

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：25870777

研究課題名(和文)ニューディール時代のアメリカ黒人文学文化とナショナリズム

研究課題名(英文)African American Aesthetics and Nationalism in the New Deal Era

研究代表者

深瀬 有希子(FUKASE, Yukiko)

実践女子大学・文学部・准教授

研究者番号：20445696

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：ニューディール文化政策としての「連邦作家計画」及び「連邦美術計画」に参加したアメリカ黒人作家芸術家の審美観と国家観を分析した。(1)ゾラ・ニール・ハーストンのTheir Eyes Were Watching God(1937)や当時は未出版の民族誌的記録(2)アーロン・ダグラス他による1930年代壁画作品(3)リチャード・ライトの12 Million Black Voices (1941)と農村安定局撮影の写真(4)ダグラスとデュボイスが再構築したアフリカ人エステバニコ表象、及び、ニューディール政策とリベラリズムの概念。

研究成果の概要(英文)：Less critical attention has been paid to the influence of the political and cultural regulation or expectation by the Roosevelt administration on African American creativity. Since the late 1990s, however, efforts on compiling Zora Neale Hurston's manuscripts from various resources have shaped new perspectives on her life and works during the New Deal era. This research analyzed how the New Deal cultural politics and its romantic nationalism controlled as well as constructed African American vernacular and visual artifacts. By doing substantial research on the primary materials at the Library of Congress, the National Archive, and other academic institutions in the U.S., this study aimed to show that African American artists suffered from economical struggles and psychological ambivalence under the massive influence of the Roosevelt administration; however, they explored modernist aesthetics and pursued socialistic ideas for advancing racially equal domains.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：アメリカ黒人文学文化 ニューディール政策 ナショナリズム 社会主義 壁画 ゾラ・ニール・ハーストン アーロン・ダグラス リチャード・ライト

1. 研究開始当初の背景

1990年代末から近年にかけて著しい成果をあげているのが、黒人女性作家文化人類学者ゾラ・ニール・ハーストンの人生の全貌を明らかにすべく行われる伝記的アプローチである。これまでハーストンの伝記研究では、ロバート・ヘメンウェイの *Zora Neale Hurston: A Literary Biography* (1977) が、先駆的かつ決定版と見なされてきた。昨今はその内容を修正し、さらなる情報を付け加えるアーカイブ的研究が目立つ。具体的には、ゲアリー・マクドノーの *The Florida Negro: A Federal Writers' Project Legacy* (1993)、パミラ・ボーデロンの *Go Gator and Muddy the Water: Writings by Zora Neale Hurston* (1999)、カーラ・カプランの *Zora Neale Hurston: A Life in Letters* (2002)、ヴァレリー・ポイドの *Wrapped in Rainbows: The Life of Zora Neale Hurston* (2003) である。これらの著作には、議会図書館、公文書館、ハーワード大学、フロリダ大学、イエール大学等の、複数個所に分散して保存されていた、ハーストンの自筆原稿や、白人編集者やパトロンと交わした書簡、さらには「連邦作家計画」によって雇われた一介の作家としての立場から、ハーストンが政府関係者に送った要望書、草稿、メモなどの一次資料が纏められている。

改めてアフリカ系アメリカ文学文化批評史をふりかえってみると、1920年代の「ハーレム・ルネッサンス」研究や、1950年代後半から60年代の公民権運動時代の研究に比べると、1930年代から1940年代のニューディール文化政策下における黒人作家芸術家による仕事に焦点を置いた論考は、米国においても日本においても少ない。そこで本研究により、ニューディール時代のアフリカ系アメリカ文学文化研究の深化に貢献することを目指した。

2. 研究の目的

本研究は、上に記した米国で進行中のアーカイブ的研究成果、特に、「連邦作家計画」の一員としてゾラ・ニール・ハーストンが著した文書等の一次資料編纂の成果を踏まえて進めることとした。また、フロリダ州にて「連邦作家計画」に参加していたハーストンが記した文書に加えて、フロリダ以外の州でも行われた「連邦作家計画」に参加していた同時代のほかの黒人作家芸術家、例えばアーロン・ダグラスやリチャード・ライトらによる作品も分析対象に組み込むこととした。それにより、ローズヴェルト政権下で全米に向けて掲げられた理念、すなわち、「普通の人々が作る民衆のためのアメリカ」という理念が、黒人作家芸術家によって、フロリダ州、ニューヨーク州、イリノイ州にていかに具現化され、同時に、彼ら独自の形に修正改変されたのかを、文学、絵画、写真を扱いつつ立体的に示すことを

目的とした。

3. 研究の方法

まず下記の三分野に着目し、それぞれの一次資料が保存されているアメリカ合衆国の公文書館や議会図書館、大学図書館に赴き、調査を行った。その後は、学会発表、雑誌論文、図書出版という形で研究成果を示した。

(1) 文学の分野では、ハーストンの小説 *Their Eyes Were Watching God* のほか、「連邦作家計画」の下で雇用された黒人及び白人作家たちがフィールドワークで収集した各州の民話、歴史的地理学的記録 (*Florida Negro, New York City Panorama*)、さらには、文化的理解とともに観光業促進という経済効果もねらって作成された旅行ガイド (*Florida Guide*) を分析した。

(2) 絵画の分野では、「連邦芸術計画」の指示の下に制作された壁画を扱った。批評家エイミー・カーシュクは、それらの壁画を「大恐慌壁画」と呼んで論じたが、公的空間に描かれる壁画という芸術形態は、ローズヴェルト政権が掲げた「民衆のためのアメリカ」像を、広く一般に効率よく知らしめるに最適な媒体であった。フロリダ州マイアミ郵便局にあるデンマン・フィンクの作品、及びニューヨークシティのYMCAやニューヨーク公共図書館のショーンバーグコレクションに保存されているアーロン・ダグラスの作品 *Aspects of Negro Life* は、それを示す好例である。壁画分析には、それが設置されたコンテキストの調査が必要なため、上記作品が実際に設置された現場へ赴き調査を行った。

(3) 写真の分野では、ニューディール文化政策の中で最も充実した成果を挙げたと見なされている、農村安定局によって撮影された写真と、それらの写真が挿入されて出版されたリチャード・ライトの作品 *12 Million Black Voices* (1941) を考察した。

上記の三分野に及ぶ研究を進めるにあたり、基本文献・関連一次資料の収集とその分析を基礎的作業とした。現在の資料収集状況にあわせ、インターネット上で論文や画像がダウンロードできる場合はこれを利用したが、国内で閲覧、入手不可能な資料収集のため、アメリカ合衆国への出張を行った。ゾラ・ニール・ハーストン、リチャード・ライト、アーロン・ダグラスなど、公共事業促進局に雇用されていた作家芸術家による作品(書簡やメモ書き等も含む)は、それぞれが属した州支部管轄で保管されてきた。よってそれら一次資料にあたるために、ニューヨーク公共図書館、ハーレム・ホスピタル・センター、ニューヨークYMCA、ワシントンDCにある議会図書館、公文書館(別館はメリランド州)を訪れ、画像や一次資料を入手した。

4. 研究成果

本研究では、1930年代から40年代にローズヴェルト政権下で設置された公共事業促

進局による、「連邦作家計画」及び「連邦美術計画」に参加したアフリカン・アメリカン作家芸術家の芸術観と国家観を考察し、学会発表、雑誌論文、図書としてまとめた。

主な成果としては(1)ゾラ・ニール・ハーストンの *Their Eyes Were Watching God* (1937)ほか、彼女が30年代に著すも当時は出版されなかった民族誌的記録についての論考、(2)アーロン・ダグラスほか1930年代のニューヨークシティで活躍した壁画作家についての論考、(3)シカゴの公共事業促進局に雇用されたりチャード・ライトの *12 Million Black Voices* (1941)と、ニューディール文化政策のなかで最も充実した成果を挙げたとされる農村安定局によって撮影された写真群との関係についての考察、(4)派生的な研究として、アーロン・ダグラスと代表的アフリカ系アメリカ人思想家 W.E.B. デュボイスが再構築したアフリカ人エステバニコの表象、及び、ニューディール政策とアフリカン系アメリカ人にとってのリベラリズムの概念についての考察、が挙げられる。

(1)ゾラ・ニール・ハーストンの *Their Eyes Were Watching God* (1937) をはじめとして、彼女がフロリダ州「連邦作家計画」の活動中の1930年代後半に著した作品には、「連邦作家計画」が志向した「貢献度よりも参加度に注目するアプローチ」との親和性を見出すことができた。確かに、本小説自体はアメリカ合衆国から離れたハイチにて書かれたものであるが、作品内にてフロリダ州を「メルティング・ポット」として描き、かつそのフロリダにて「アメリカネス」を謳う黒人民衆の姿からは、ハーストンが本書によって、部分的にはローズヴェルト政権の文化政策に従うかたちで「ロマンティック・ナショナリズム」を打ち立てなくてはならなかった背景がみてとれた。

しかしながら、本作品とのちに1940年代に書かれた著作とをあわせてハーストンとフロリダ州「連邦作家計画」との関係を見直すことによって、本研究全体で得られた結論は以下ようになる。つまり、ニューディール政策またはフロリダ州「連邦作家計画」とは、ハーストンを単に経済的に支えたというよりも、彼女にリベラリズムの再定義を促し、かつ「連邦作家計画」時代における振舞いをも見直すことを彼女に動機づけた点で、芸術的自立を促したパトロンであったということである。この点は以下(4)において、改めて触れる。

(2)1930年代のアフリカン・アメリカン壁画作家については、ニューヨークシティのハーレム・ホスピタル・センター、YMCA、ニューヨーク公共図書館ショーンバーグコレクション、さらには、ワシントンDCの議会図書館および公文書館で入手した画像や壁画修繕に関する一次資料が重要な役割を果たした。本論考ではまず、アーロン・ダグラスを筆頭に、ヴァーティス・ヘイズ、ジョーゼ

ット・シーブルック、チャールズ・アルストンらアフリカン・アメリカンの壁画作家たちの交流を説明した。その上で、ニューディール政策が社会主義思想とその理念に基づく芸術表現活動を規制するなかで、上記の壁画作家たちが用いた技法と主題の関係を明らかにした。

特にダグラスについては、彼は手法としては1920年代のいわゆるハーレム・ルネサンス時代に追求したモダニズムを維持しながらも、他方、主題としては1930年代にほかのアフリカ系アメリカ人知識人によって受け入れられた(部分的にはメキシコ経由の)社会主義思想を、ローズヴェルト政権による検閲を意識しつつも、作品に取り込んだ点を論じた。

(3)シカゴの公共事業促進局に雇用されたりチャード・ライトの *12 Million Black Voices* (1941)は、ライトによって書かれた文章と、農村安定局に属し、のちにアメリカを代表することになる写真家たちによって撮られたアフリカン・アメリカン共同体の写真とが、一冊の本の中で併置されるという特異な形態を持っている。この点に対して、白人写真家による芸術的かつ政治的「フィルター」を通して映し出された黒人共同体像は、はたしてライトの描く黒人共同体像と一体化できるのかという問いを提起した。

ワシントンDCの議会図書館のドキュメンタリーセクションでの調査の結果、確認できたのは、実は黒人少女を写したある写真がライトの本書に収録されるにあたり、当時の技術をもって修正を施されたという事実であった。実は当初の写真では、被写体となった黒人少女は写真家に向かって「舌を出す」という挑戦的な態度をとったが、編集にあたっては貧困にあえぐ黒人家族というイメージを作りだすために、その写真を、「舌を閉じ込めた」姿に修正したのだった。この事実を確認したことにより、白人政治家によって主導されたニューディール文化政策が、いかに黒人民衆像を修正改ざんしながらアメリカの理念を打ち立てるも、同時に、黒人芸術家がそれに可能な限り抗ったのではないかという、本研究課題の仮説を証明することができた。

(4)派生的な研究として、まず一つ目は、エステバニコという16世紀に新大陸アメリカにやってきたアフリカ人についての言説を検討することができた。アーロン・ダグラスによる壁画について資料を収集しているさなかに、彼がこのエステバニコなる人物についての壁画を作成するも、しかしながら、その画像が資料としては現存していないという事実を知ることになった。しかし、ダグラスの想像力には、彼と同時代のアフリカ系アメリカ人思想家 W.E.B. デュボイスからの影響があることが二次資料から確認することができた。そこで派生的な研究として、ダグラスの壁画に関する資料とともに、エステバ

ニコを描いた小説として高い評価を得た、モロッコ系アメリカ人ライラ・ララミの *The Moor's Account* (2014) について考察した。

またさらに、本研究成果(1)から現れた、ニューディール・リベラリズムに対するハーストンの批判という問題は、本研究課題の発展的結論、つまり、派生的な研究テーマといえることができる。これまで見てきたように、1930年代のハーストンは、部分的にはローズヴェルト政権が提示した「ロマンティック・ナショナリズム」を引き受けることとなった。しかしながら、ハーストンは1950年代に入ると共和党支持者として、過去のニューディール・リベラリズムを批判することとなった。当該研究期間の最後の成果として、当初の研究実施計画には含めてはいなかったが、ハーストンの系譜にある現代アフリカ系アメリカ人女性作家トニ・モリスンの小説 *Home* (2012) を取り上げて、ニューディール政策以来、再検討され続けているアフリカ系アメリカ人にとってのリベラリズムの概念を考察した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

深瀬有希子、「ニューディール期のアフリカン・アメリカン芸術家による壁画ヘイズ、シーブルック、ダグラス」、『実践英文学』(実践女子大学文学部英文学科) 査読有、69巻、2017年、43-56頁

〔学会発表〕(計5件)

深瀬有希子、シンポジウム：現代アメリカ小説における「保守」の諸相、「モリスンの『ホーム』にみる「保守」としてのセルフ・ヘルプ」、アメリカ文学会東京支部、2016年12月10日、慶応義塾大学三田キャンパス(東京都港区)

Fukase Yukiko、"Enfacing and Effacing the Cultural Other: Property and Democracy for Bayard Taylor and William Speiden Jr."、Pacific Ancient and Modern Language Association Annual Conference、2016年11月11日、カリフォルニア州パサディナ(アメリカ合衆国)

深瀬有希子、「フレデリック・ダグラスとライシーアム」、黒人研究の会、2016年4月23日、立命館大学朱雀キャンパス(京都府京都市)

深瀬有希子、「Aaron Douglas の失われた壁画とアフリカ人 Estebanico」、第54回アメリカ文学会全国大会、2015年10月10日、京都大学(京都府京都市)

深瀬有希子、「ニューディール期のアフリカン・アメリカン芸術家による壁画」、黒人研究の会、2015年4月25日、京都キャンパスプラザ(京都府京都市)

〔図書〕(計2件)

深瀬有希子、金星堂、『新たなるトニ・モリスン その小説世界を拓く』、2017年、250頁(147-158)

深瀬有希子、金星堂、『アメリカン・ロードの物語学』、2015年、528頁(235-248)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

http://www.jissen.ac.jp/learning/teach/teacher/fukase_yukiko.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

深瀬 有希子 (FUKASE, Yukiko)
実践女子大学・文学部・准教授
研究者番号：20445696

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()